



市長の 部屋から⑧ 施策や考えを発信



「創造都市 可児」へ

先日、可児陶芸協会の設立記念講演がアリーラで開催されました。

そのメインテーマの一つに、国宝茶わんの「卯花^{うのはながき}墻」がありました。これは我が国に二つしかない国産の国宝茶わんの一つで、可児で生まれたものです。桃山時代には久々利の大萱・大平で瀬戸黒、黄瀬戸、志野、織部など日本を代表する茶陶の名品が数多く生み出されました。「桃山陶」と総称される当時の最先端の文化・芸術の聖地は可児だったので

す。世界に誇るこの文化・芸術はこれから市民が誇りとし、次世代にしっかりと引き継がなければなりません。

さて、市内には「文化創造センター・アリーラ」があります。ここでは、文化・芸術を東京発でなく、地方から創造、発信すること、市民の皆さんと取り組んでいます。9月には、俳優の平幹二朗氏が1カ月間市内に滞在し、「エレジー」という作品を制作、アリーラで公演後、全国で公演しました。

「近き者慶べば遠き者来る」と論語にあります。これからも市民の皆さんが集い、学び、楽しんで、可児市の素晴らしさを発信してください。こういった活動が、交流人口、定住人口の増加、市の発展に結びつきます。ぜひ、「創造都市 可児」を一緒に創っていきましょう。



市内で稽古し、公演する「エレジー」

市長 富田成輝